

860回目となるこの日は、朝から1年生のみなさんが献花用の花を持ってきてくれました。ありがとうございました。

今年度最後の祈念式は校長先生からのお話で、1年間の祈念式の総括でした。

○平和祈念式が始まって、今日で71年と8か月になる。この間、一度も欠かさず、毎月9日に、私たちの先輩方が平和を願い、平和を守っていくという思いを確かめる時間を積み重ねてきた。

○今年度の祈念式を振り返ると

4月…校長先生から内田伯（つかさ）さんの【目から消え去るものは 心からも消え去る】という言葉の紹介があり、城山小学校には、「被爆の継承と平和の発信」を行い、「平和は城山から」という思いをもつ責任があることを確かめた。

5月…教頭先生から、「世界でいちばん悲しいクラス」という絵本の紹介があった。この本には、原爆から生き残った先生方と子どもたちの様子が描かれていた。

6月…「子らのみ魂よ」について、井上先生や中村先生の実際の歌声を聞きながら学習した。

7月…奥村アヤ子先生をお迎えして、「被爆体験講話」を聞いた。奥村先生は、「平和な世の中にしていくためには、人のいたみがわかる心をもつことが大切である。二度と核兵器が使われることがないことを強く願っている」と私たちに訴えられた。

8月…体育館での平和祈念式では、原爆殉難者の碑に刻まれた碑文と、谷川俊太郎さんの「せんそうしない」という本の紹介があった。そして、原爆の悲惨さを継承し、平和の尊さを発信していくのは、城山小で学ぶ私たち一人一人の使命であることを改めて確認した。

9月…1年生の先生による「嘉代子桜」 10月…2年生の先生による「少年平和像」 11月…3年生の先生による「クラスザンショウ」と「双子グス」 12月…4年生の先生による「永井隆博士」 1月…5年生の先生による「平和祈念館」 2月…6年生の先生による「原爆殉難者の碑」などの話を聞いてきた。

○城山小学校で2年間過ごしてきて、こうして毎月、原爆や戦争、平和について考え、確かめることで、全校のみんなが「いたわり はげます 平和な学校」の子どもとして、确实育っていると感じている。けれども、この学校という集団の中で、悲しい思いや苦しい思い、嫌な思いをしている人もいる。その多くは、周りのことを考えず、自分の都合を優先させた言葉や行動がもとになっている。みんなで過ごしているのだから、思い通りにならないことはたくさんある。そんなとき、周りに迷惑をかけないように、相手を傷つけないようにと考えること、譲り合うこと、我慢することなども必要ではないだろうか。それが、人を大切にすることであり、本当の「平和な学校」につながっていく。

○今年は、被爆78年目の年になり、城山小学校の平和祈念式は72年目になる。これからも、みんなで一緒に「いたわり はげます 平和な学校」をつくっていききたい。

○この後は、今年度最後の「子らのみ魂よ」を歌う。一人一人、心を込めて歌ってほしい。6年生にとっては、小学校生活最後である。卒業生として、素晴らしい歌声を在校生に、城山小学校に残して行ってほしい。

○最後になるが、2月に全校で「嘉代子桜2世の植樹」を行った。これから、10年、20年と時が流れても平和な世の中が続き、大きく育ってきれいな花を咲かせ、私たちを楽しませてくれることを願っている。

これからも、みんなで見守ってほしい。

